

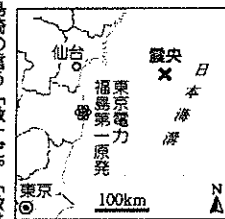
平成 災害列島

地震、噴火、豪雨。平成の三十年間には大きな災害が各地で相次ぎ、人々に衝撃を与えた。時がたち、忘れられつつある災害も多い。「想定外」の被害を繰り返さないためには、どうすればいいのか。災害に関わった人々を訪ね、次の時代につなぐべき教訓を探る。

東日本大震災

「原発事故が起きて、それ...」僕は初めて知ったわけ。敵だまされ続け、気づけないで...」僕は初めて知ったわけ。敵だまされ続け、気づけないで...」僕は初めて知ったわけ。敵だまされ続け、気づけないで...」

元日本地震学会会長など 島崎邦彦



島崎の言う「敵」だ。「敵はあまねくいる」と重ねた。島崎によれば、最初に敵が牙をむいたのは二〇一二年七月下旬のこと。



「福島原発事故 防げただろう」

「上の方と相談したところ非常に問題が大きい」「今回の発表は見送る」ように「強く申し入れる」というもの。さらに「地震の規模の」「誤差に」「十分留意すること、報告書の信頼性を損なうような表紙を付けることを求めている」。

津波予測ねじ曲げ

政治の都合で圧力



「この調査会の委員だった島崎は「(一)そっち(南半分)の方が多分、次に起こるとみんな思っていた。先手必勝で行くなら、そっちを対象にした方がいい」と事務局案を批判。しかし、強引に通された。

「研究者を操るなど容易」

「電力会社など」原発所は原発サイト周辺の狭い場所について、われわれより詳細に地震や津波を調べているはずだ。だから、被害想定は検討対象から外していた。つまり検討対象外だから、そも



東日本大震災で東京電力福島第一原発に迫る津波。東京電力提供。東京電力旧経営陣3人の初公判が行われる東京地裁前で、被告の責任や原発反対を訴える福島原発告訴団=2017年6月30日、東京・蔵前

「上に、当人にだけかかる批判をするのが研究者の世界。でも、それじゃ周囲の人には何かおかしいのが分かる。だから、だかろうしょうがない。お上品に、やっつけられない。そう語る目は、敵を見据えていた。」

(大村歩) 文中敬称略